



MARUKO Weekly Report



2022-2023丸子RCテーマ

イマジン
ロータリー

創立60年 より深い絆でロータリーの夢を叶えましょう

RI会長/ジェニファーE. ジョーンズ D2600ガバナー/上沢広光
会長/宮本伸司 副会長/河野正美 幹事/斎藤育子 会報委員長/ 小宮山陽一

第2819回例会

2023年5月18日 Vol. 60/No. 36

会員卓話

【今後の生活排水処理について (問題提起)

河野正美さん



過去2回の卓話で、生活排水処理の手法には下水道による集合処理と浄化槽による個別処理があり、地方の人口分散地域においては下水道管を必要としない浄化槽による個別処理が持続可能な手法として有効だという話をさせていただきました。

今日はその続編で、昨今、県、市町村が進めている集合処理同士の統廃合について問題提起をしたいと思います。

人口減少と節水型トイレの普及による使用料収入の減少により、大都市以外の地域では下水道の経営は大幅な赤字に陥っています。

使用者負担の原則からすると、大幅な料金の値上げが必要ですが、ほとんどの自治体で必要な額の値上げを行わずに、多額の一般会計からの繰り入れを行って建設費の償還等がされています。

また、必要な更新工事も先送りされています。この状況を少しでも改善する事を目的に進められているのが統廃合という手段ですが、維持管理費については減少させることが出来ても、統合するためには新たな下水道管やポンプ施設を建設する必要もあり、更に大きくなった施設の修繕費や更新費用の事を考えると本当にそれで良いのかと思います。

維持管理費の削減を目的に、県の所有する上下水道の運営権を一括して20年間、民間に売却するといった宮城県の実例があります。

世界的な水メジャーと言われているフランスのヴェオリアの日本法人を含む企業グループが交渉権を獲得しました。

広域連携で施設規模が大きくなればなる程、地方の小さい民間企業の出る幕は無くなります。また、運営権の売却によって、当然、料金の値上げは起こってくると思います。

地方の生活排水処理は集合処理から個別処理へと、その主たる手法を切り替えて、更なる人

口減少社会に備える。この事を真剣に考えるべき時期が来ていると思います。

【会長挨拶

宮本伸司会長】



皆さんこんにちは。

本日は、情熱の果実というエキゾチックな名前の印象とは裏腹に、一日だけ咲く儂い花(パッションフラワー)、受粉の手助けをすることでフルーツが実ります。その名前からしてちょっと刺激的な響きを持つパッションフルーツの話です。原産地は情熱の国、ブラジル。

日本へは明治時代に導入された説があります。近年になって食の多様化とともにトロピカルフルーツの一つとして知られるようになりました。

家庭でも広く栽培されるようになったのは、東日本大震災を契機とする節電がうたわれた、2011年以降のグリーンカーテンブームからではないでしょうか。

厚みのある大きな葉が日差しを遮ると共に、果実も楽しめる一挙両得カーテンとして利用されるようになりました。

造形的で個性的な花容から、パッションフルーツがトケイソウの仲間だと分かります。

残念ながらこの、翌日には萎んでしまう一日花はその日中に雌しべが受粉しなければ果実が出来ません。果実を目的にするなら人工授粉を行うのが効率的です。

初夏に開花したパッションフルーツの果実が完熟するには約70から90日程かかります。

じっくり育てて完熟を待ちましょう。

皆様も 情熱の果実 楽しんでみてはいかがでしょうか。

(パッションフルーツの名前の由来は情熱ではなくキリストの受難(トケイソウの花の中心が十字架に似ていることからアメリカではパッションフラワーと呼ばれその果実だからパッションフルーツと呼ばれているそうです)



【例会報告】

- *司 会 山浦智城さん
- *S A A 笹井寿美枝さん
- *ロータリーソング 奉仕の理想

【出席報告】

会 員 数 41名 (内出席免除者 15名)
本日の出席者 12名



ラッキー賞 山田裕さん
「ありがとうございます。
久々の例会出席です。ラッキー賞を頂く
のはうれしいことですね」

【幹事報告 齋藤育子幹事】

- ・第2600職業奉仕委員会より
職業奉仕委員会開催案内送付
7月8日 (土)
- ・第2600地区インターアクトより
インターアクト地区大会開催案内送付
6月25日 (日) 松本第一高校
- ・米山記念奨学会より
「ハイライトよねやま」送付
- ・上田保健所より
移動採血者運行の案内送付

今週の配布物

無し

今週の配信

会報No.2818号

週報恵送

上田六文銭RC

【にこにこBOX報告】

「後期高齢者になりました。
もう少し頑張ります。」 山田裕さん
「今週末は5クラブ親睦ゴルフコンペです。
団体優勝目指して頑張ります。」
河野正美さん
「河野さん卓話よろしくお願ひします。」
宮本伸司さん、佐藤重喜さん、内堀敏高さん
小宮山陽一さん、服部正さん、掛川浩邦さん
奥寺浩司さん、齋藤加代美さん、山浦智城さん
河西満正さん

今週の喜投額 14,000円
今年度累計額 639,000円



「会長エレクト、次期幹事より」

あと1ヶ月でいよいよ次年度が始まります。
クラブ活動計画を立てていますので、次年度活動計画案がある方、委員会は連絡をお願いします。
地区補助金事業は、「古着でワクチン」東信第二グループ合同事業となりました。
皆様のご協力をよろしくお願ひします。

【雑記

会報委員会】

植物学者 牧野富太郎について

現在NHKで放送されている朝の連続ドラマ「らんまん」の主人公牧野万太郎のモデル 牧野富太郎の掲載文がありましたので紹介します。

植物学者牧野富太郎は、高知県(土佐国)佐川に文久2年、未だ頭は髷を結び、腰に刀を携えた武士が村民や農民に交じって往来していた時代、地元でも名の知れた造り酒屋に生まれました。

生まれつき病弱な一人っ子で6才になるまでに両親と祖父が亡くなり祖母に溺愛され育った。

幼少のころから植物に関心を持ち大きくなるにつれ益々植物への関心が強まり、いとこの縁談を断り東京へ出て別の女性と結婚し実家の財産を使い果たしてまで植物の研究にのめり込んでいった。

そこまで誘引した植物の魅力については分からないが、植物自体の魅力によるものだろう。

牧野は日本で始まったばかりの植物学でのパイオニアとして歴史に名を留めることが出来た。

24才の時植物学の教授矢田部博士と面会し東京大学に出入りを認められ、以前にもまして植物採集と標本づくりに没頭し40万点の標本を作り個人としては日本でも最大級の植物コレクターになった。

牧野は、未だ学会に知られていない植物を多数発見し、それらの植物を精査し新品種等として発表した数は一千種を超える。まちがいなく日本植物の分類的研究のパイオニアだった。

道端に生える普通の植物の中にも、形状が微妙に異なる別の植物が混在していることを見抜く眼力があり、絶賛を受けた植物画もそうした眼力の鋭さに裏打ちされた観察力があってのものである。

牧野は77歳で辞めるまで大学で研究を続けたが、晩年は植物を愛好する人々が集う同好会などに呼ばれ講演会や観察会などを指導し人気を博した。

牧野の最後の仕事となったのが、

「牧野日本植物図鑑」の刊行である。大学時代に指導した学生らが支援をした。図鑑は今も改定・改版を重ね、日本を代表する植物図鑑としての役割を果たしている。

日本では、植物学と言えば牧野の対話のように口上に上がることが多い。

日本の植物分類研究の父たる所以であろう。

(文=大場秀章 東京大学名誉教授、植物学者より)

